

2021年度

シラバス

第2学年（第4回生）

学校法人 医療創生大学

葵会仙台看護専門学校

4 回生：教育課程・学科進度表

科目名			内容	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年		
		前期				後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考の 基盤	論理学		1	30		30					
		情報科学		1	30		30					
		看護物理学		1	15	15						
	人間と生活・社会の理解	音楽		1	30	30						
		倫理学		1	30				30			
		心理学		1	30		30					
		教育学		1	30			30				
		社会学		1	30	30						
		医療英語Ⅰ		1	15	15						
		医療英語Ⅱ		1	30		30					
		運動と健康		1	30	30						
		人間関係論	家族論含む	1	30	30						
		ホスピタリティ論		1	15	15						
		小計		13	345	165	120	30	30	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造・機能学Ⅰ	細胞の構造と機能 組織 骨格・筋系の構造と機能	1	30	30						
		人体構造・機能学Ⅱ	呼吸器系 循環器系 泌尿器系	1	30	30						
		人体構造・機能学Ⅲ	消化器系 血液 内分泌系	1	30	30						
		人体構造・機能学Ⅳ	神経系 免疫系 生殖器系	1	30		30					
		生化学		1	30	30						
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物		1	30	30						
		栄養学		1	30		30					
		病態治療学Ⅰ	概論	1	30		30					
		病態治療学Ⅱ	呼吸器 循環器 腎臓・泌尿器	1	30		30					
		病態治療学Ⅲ	消化器 内分泌・代謝	1	30		30					
		病態治療学Ⅳ	運動器 脳・神経 神経内科	1	30		30					
		病態治療学Ⅴ	皮膚疾患 耳鼻咽喉疾患 眼科疾患 歯・口腔疾患 血液・造血疾患 女性生殖器	1	30		30					
		病態治療学Ⅵ	外科総論 外科各論 放射線治療 臨床検査	1	30			30				
		薬理学		1	30		30					
		リハビリテーション論		1	15			15				
		健康支援と社会保障制度	総合医療論		1	15	15					
			公衆衛生学		1	15			15			
	社会保障			1	15			15				
	社会福祉			1	15			15				
	看護関連法令			1	15						15	
	経済と看護			1	15					15		
	小計			21	525	165	240	90	0	15	15	
	専門分野Ⅰ		基礎看護学	看護学概論		1	30	30				
		基礎看護学援助論Ⅰ		コミュニケーション 安全な医療環境	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅱ		ヘルスケアアセスメント	1	30	15	15				
		基礎看護学援助論Ⅲ		活動と休息 安全・安楽な療養環境	1	30	15	15				
		基礎看護学援助論Ⅳ		清潔・衣生活	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅴ		食事 排泄	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅵ		看護過程	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅶ		呼吸・循環を整える技術 救命救急処置技術	1	15		15				
		基礎看護学援助論Ⅷ		薬物療法と看護 診察・検査に伴う看護	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅸ		健康状態の経過に基づく看護 主要症状別看護 治療処置を受ける対象者への看護 創傷管理技術	1	30		30				
		小計			10	285	120	165	0	0	0	0
		基礎看護学実習Ⅰ		1	45	45						
基礎看護学実習Ⅱ			2	90				90				
小計			3	135	45			90				
専門分野Ⅰ 小計			13	420	165	165	0	90	0	0		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30					
		成人看護学援助論Ⅰ	系統別健康問題のある患者への看護援助	1	30			30				
		成人看護学援助論Ⅱ	系統別健康問題のある患者への看護援助 慢性期患者の看護過程	1	30			30				
		成人看護学援助論Ⅲ	手術療法を受ける患者の看護 急性機能不全患者の看護	1	30			30				
		成人看護学援助論Ⅳ	手術を受ける患者の看護	1	30				30			
		成人看護学援助論Ⅴ	慢性期・周手術期の看護技術 がん看護	1	30				30			
		小計		6	180	0	30	90	60	0	0	
	老年看護学	老年看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30					
		老年看護学援助論Ⅰ	老年期のヘルスアセスメント 日常生活援助	1	30			30				
		老年看護学援助論Ⅱ	老年期の健康障害時の看護	1	30			30				
		老年看護学援助論Ⅲ	看護過程の展開	1	15				15			
		小計		4	105	0	30	60	15	0	0	
	小児看護学	小児看護学概論	看護の対象と目的	1	30			30				
		小児看護学援助論Ⅰ	病気や障害を持つ子どもの看護 必要な技術	1	30			30				
		小児看護学援助論Ⅱ	病態治療学 主な疾患とその子どもの看護	1	30				30			
		小児看護学援助論Ⅲ	看護過程の展開	1	15				15			
		小計		4	105	0	0	60	45	0	0	
	母性看護学	母性看護学概論	看護の対象と目的	1	30			30				
		母性看護学援助論Ⅰ	病態治療学 妊娠・分娩・産褥期の看護 新生児の看護	1	30			30				
		母性看護学援助論Ⅱ	妊娠・分娩・産褥期の異常 新生児にみられやすい病態・疾患・看護	1	30				30			
		母性看護学援助論Ⅲ	褥婦の看護過程	1	15				15			
		小計		4	105	0	0	60	45	0	0	
	精神看護学	精神看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30					
		精神看護学援助論Ⅰ	精神疾患の診断・治療およびケアの方法	1	30			30				
		精神看護学援助論Ⅱ	精神看護とサポート	1	30			30				
		精神看護学援助論Ⅲ	看護過程の展開	1	15				15			
		小計		4	105	0	30	60	15	0	0	
	臨床実習	成人看護学実習Ⅰ		3	135				135			
		成人看護学実習Ⅱ		3	135					135		
		老年看護学実習Ⅰ	(老人保健施設実習 3 0 時間含む)	2	90				90			
		老年看護学実習Ⅱ		2	90					90		
		小児看護学実習	(保育園実習30時間含む)	2	90					90		
		母性看護学実習		2	90					90		
		精神看護学実習		2	90					90		
		小計		16	720				225	495		
	専門分野Ⅱ 小計			13	810	0	90	330	405	495	0	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	看護の対象と目的 関連する制度	1	30		30					
		在宅看護援助論Ⅰ	在宅療養を支える看護技術 (日常生活)	1	15			15				
		在宅看護援助論Ⅱ	在宅療養を支える看護技術 (医療)	1	30				30			
		在宅看護援助論Ⅲ	在宅援助技術 (看護過程)	1	30				30			
		小計		4	105	0	30	15	60	0	0	
	看護の実践の統合と	看護研究の基礎		1	30				30			
		看護管理と医療安全		1	30					15	15	
		災害・国際看護学		1	15					15		
		臨床実践の統合		1	30					15	15	
		小計		4	105	0	0	0	0	45	30	
	臨床実習	在宅看護論実習		2	90					90		
		統合実習		2	90						90	
		小計		4	180					90	90	
	統合分野 小計			12	390	0	0	15	60	135	120	
講義時間 総計				74	1965	450	645	465	270	60	45	
実習時間 総計				1095		735		105				
				45	0	30	315	585	90			
総時間数				97	3000	1140		1080		780		

2年次 学科目

科目名			内容	単位数	時間数	2学年		
						前期	後期	
	人間と生活・社会の理解	音楽						
		倫理学		1	30		30	
		心理学						
		教育学		1	30	30		
		社会学						
		医療英語Ⅰ						
		医療英語Ⅱ						
		運動と健康						
		人間関係論	家族論含む					
		ホスピタリティ論						
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物						
		栄養学						
		病態治療学Ⅰ	概論					
		病態治療学Ⅱ	呼吸器 循環器 腎臓・泌尿器					
		病態治療学Ⅲ	消化器 内分泌・代謝					
		病態治療学Ⅳ	運動器 脳・神経 神経内科					
		病態治療学Ⅴ	皮膚疾患 耳鼻咽喉疾患 眼科疾患 歯・口腔疾患 血液・造血疾患 女性生殖器					
		病態治療学Ⅵ	外科総論 外科各論 放射線治療 臨床検査	1	30	30		
		薬理学						
	リハビリテーション論		1	15	15			
	社会健康支援と社会保障制度	総合医療論						
		公衆衛生学		1	15	15		
		社会保障		1	15	15		
		社会福祉		1	15	15		
		看護関連法令						
		経済と看護						
			基礎看護学実習Ⅱ	1	90		90	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	看護の対象と目的					
		成人看護学援助論Ⅰ	系統別健康問題のある患者への看護援助	1	30	30		
		成人看護学援助論Ⅱ	系統別健康問題のある患者への看護援助 慢性期患者の看護過程	1	30	30		
		成人看護学援助論Ⅲ	手術療法を受ける患者の看護 急性機能不全患者の看護	1	30	30		
		成人看護学援助論Ⅳ	手術を受ける患者の看護	1	30		30	
		成人看護学援助論Ⅴ	慢性期・周手術期の看護技術 がん看護	1	30		30	
	老年看護学	老年看護学概論	看護の対象と目的					
		老年看護学援助論Ⅰ	老年期のヘルスアセスメント 日常生活援助	1	30	30		
		老年看護学援助論Ⅱ	老年期の健康障害時の看護	1	30	30		
		老年看護学援助論Ⅲ	看護過程の展開	1	15		15	
	小児看護学	小児看護学概論	看護の対象と目的	1	30	30		
		小児看護学援助論Ⅰ	病気や障害を持つ子どもの看護 必要な技術	1	30	30		
		小児看護学援助論Ⅱ	病態治療学 主な疾患とその子どもの看護	1	30		30	
		小児看護学援助論Ⅲ	看護過程の展開	1	15		15	
	母性看護学	母性看護学概論	看護の対象と目的	1	30	30		
		母性看護学援助論Ⅰ	病態治療学 妊娠・分娩・産褥期の看護 新生児の看護	1	30	30		
		母性看護学援助論Ⅱ	妊娠・分娩・産褥期の異常 新生児にみられやすい病態・疾患・看護	1	30		30	
		母性看護学援助論Ⅲ	褥婦の看護過程	1	15		15	
	精神看護学	精神看護学概論	看護の対象と目的					
		精神看護学援助論Ⅰ	精神疾患の診断・治療およびケアの方法	1	30	30		
		精神看護学援助論Ⅱ	精神看護とサポート	1	30	30		
		精神看護学援助論Ⅲ	看護過程の展開	1	15		15	
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ		3	135		135	
		成人看護学実習Ⅱ						
		老年看護学実習Ⅰ	(老人保健施設実習30時間含む)	2	90		90	
		老年看護学実習Ⅱ						
		小児看護学実習	(保育園実習30時間含む)					
		母性看護学実習						
		精神看護学実習						
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	看護の対象と目的 関連する制度					
		在宅看護援助論Ⅰ	在宅療養を支える看護技術 (日常生活)	1	15	15		
		在宅看護援助論Ⅱ	在宅療養を支える看護技術 (医療)	1	30		30	
		在宅看護援助論Ⅲ	在宅援助技術 (看護過程)	1	30		30	
	看護の実践と統合	看護研究の基礎		1	30		30	
		看護管理と医療安全						
		災害・国際看護学						
		臨床実践の統合						
総計				36	1080	465	615	1080

領 域	基礎分野 (科学的思考の基礎)		科目	教育学		担当	本間 明信
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2 年次	前期	1 単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
本間 明信		宮城教育大学、教育学部及び教職大学院（修士）において教授（教授学）授業研究、教育の方法・技術、教育臨床論、など担当					
到達目標		教育により人間は人間になる。だから「人間とは何か」を考えるのが教育学である。すべての人が生きている限り考え続けなければならない。					
授業概要		興味深い事例・活動を通して、人間特有の活動に興味を喚起する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		堅苦しくなく、「教育」を身近に感じ、看護に結びつけてほしい。					
回数	授業内容						授業方法
1	教育学の定義・教育の意味						講義
2	ルソーの教育、コメニウスの教育						講義
3	林竹二「人間について」						講義
4	学習と発達（自己教育） 「視覚論」						講義
5	動物における発達（視覚 2）						講義
6	教授学習過程における無意識（体系と教育 1）						講義
7	無意識の意味（ユング心理学）						講義
8	生活のなかで行われる教育（特別な日）・・・「星座」						講義
9	積極的に相手の気持ちを知る（発問論）						講義
10	心の変化と身体の変化（心と身体 1）						講義
11	表情の獲得と発達（心と身体 2）						講義
12	集団の中の感情の変化・連動						講義
13	教えるための体系（体系と教育 2）化学と音楽						講義
14	メディアの教育						講義
15	単位認定試験・まとめ						試験
教科書		なし。毎回の資料による学習。					
参考文献		毎回資料を紹介する。					
備考							

領域	基礎分野			科目	倫理学		担当	菅原 宏道	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1 単位	30時間	15回	講義	課題	50%		
						単位認定試験	50%		
担当者名		担当講義に関する実務経験							
菅原 宏道									
到達目標		医療の発展や生命科学の進展によって生じている、人間の生命や医療に関する倫理（哲学）的、社会的問題について、医療者として、患者・家族として、そして社会の市民として考えることで、それらについての自分自身の考えを根拠とともに表現できるようになる。							
授業概要		倫理的な考え方、概念、理論を理解する。そして、人間の生命や医療に関する倫理（哲学）的、社会的な諸問題が一般にどのように議論され、公的に規定されているかを学び、各問題に対して自分自身の考えをまとめてもらう。理解とリアリティの促進のため、映画と数回の動画を観ます。							
学習者への期待 （含む準備学習）		私たちは生殖によって生まれ、状況ごとに判断と行為をなし、時に変遷する人生観を持ちながら、他者とともに社会に生き、いつかは死にゆく。講義では、そうした一般的、抽象的な生からいったん離れ、諸問題を、自分自身が直面しているリアルな事象と観て取り組んで欲しいと思います。なお、最低限のこととして、授業で学んだことを整理して理解した上で、知識として定着させてください。							
回数	単元		授業計画					授業方法	
1	イントロダクション		ヒトと人、事実と価値の違いについて考える。					講義	
2	自己理解		自分とはどのような存在であるかについて考える。					講義	
3	原則の倫理と徳倫理		自分（医療者）は「どうすべきか」と「どうあるべきか」との違いについて考える。					講義	
4	他者理解		自分と他者はどのように違うのかについて考える。					講義	
5	生殖医療と優生思想		子どもを産むために、どのまで医療を用いてよいかについて考える。					講義	
6	人工妊娠中絶		子どもを産むことと、産まないことについて考える。					講義	
7	健康と医療化		他者より賢くない、強くない、美しくないことはよくないことなのかについて考える。					講義	
8	老化と寿命		不老不死はのぞましいことなのかについて考える。					講義	
9	幸せと病の告知		幸せであるとはどういうことかについて考える。					講義	
10	人生の最終段階		映画を観て、終末期患者の人生観や終活について考える。					講義	
11	ICと意思決定		パターナリズムと患者の自己決定について考える。					講義	
12	脳死と臓器移植		ヒトの死と人の死は違うのかについて考える。					講義	
13	安楽死		患者自身が望むなら、死なせてあげるのがよいのかについて考える。					講義	
14	専門職の倫理		医療者と患者・家族との関係について考える。					講義	
15	単位認定試験と解説							試験・講義	
教科書		『マンガで学ぶ生命倫理』、児玉聡（著）、化学同人、2013年							
参考文献		『入門・医療倫理Ⅰ（改訂版）』、赤林朗（編）、勁草書房、2017年							
備考		配布する自作のレジュメを主とし、教科書を従とします。必要に応じて資料も配付します。							

領 域		専門基礎分野		科 目	病態治療学Ⅵ		担 当	宮本 慶一(20) 庄司 好己(4)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2 年次	前期	1 単位	30時間	15回	講義	単位認定試験			100%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
宮本 慶一		消化器外科医師として病院勤務。資格：医学博士、外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、消化器病専門医、がん治療認定医、消化器がん外科治療認定医、食道科認定医							
庄司 好己		病院長として勤務。資格：医学博士、日本胸部外科学会認定医、日本外科学会認定医							
到達目標		【外科総論】外科療法における手術侵襲と生体反応について理解する。術後合併症の原因、病態の対応法について理解すると共に術後疼痛管理の重要性を理解する。手術に必須な手技である麻酔法と輸血管理について理解する。 【外科各論】頭頸部から腹部まで外科的疾患の診断治療について理解する。							
授業概要		外科的疾患に関連する病態・治療、麻酔について理解する。							
学習者への期待 (準備学習含む)		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。							
回数	単元			授業内容				授業方法・担当	
1	外科総論			1 手術侵襲と生体反応、炎症				講義・宮本 慶一	
2				2 ショック、播性血管内凝固症候群（DIC）多臓器不全					
3				3 術後合併症とその対策 術後疼痛管理					
4				4 麻酔法、輸液管理					
5	外科各論			5・6 頭頸部、肺、胸部				講義・庄司 好己	
6									
7				7・8 心臓、脈管系					
8									
9				9・10 消化器および腹部				講義・宮本 慶一	
10									
11				11・12 救急					
12								内部講師	
13	13・14 学習のまとめ								
14									
15				単位認定試験				試験	
教科書									
参考文献		系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論 医学書院							
備考									

領 域		専門基礎分野		科 目	リハビリテーション論		担 当		工藤 尚哉 田邊 理 菊池 佑馬	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
2 年次	前期	1 単位	15時間	8 回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%	
担当者名		担当講義に関する実務経験								
工藤 尚哉		理学療法士として病院勤務								
田邊 理		リハビリスタッフとして病院及び老健施設での勤務経験を有す								
菊池 佑馬		リハビリスタッフとして病院及び老健施設での勤務経験を有す								
到達目標		人間が人間として権利を回復する活動としてのリハビリテーションの概念と意義を学ぶ。 リハビリテーションの理念とチーム医療における看護師の役割を理解する。								
授業概要		リハビリテーション概要と障害・状態別リハビリテーションの実践について講義を通して学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		教科書を事前学習し不明な点は明確にすることを習慣にしてリハビリテーションの理解に臨むこと。								
回数	授業内容							授業方法・担当		
1	リハビリテーションの基本的考え方 （１）リハビリテーション理念 （２）リハビリテーションの対象と目標 （３）リハビリテーションの種類と特徴							講義・工藤		
2	チームで取り組むリハビリテーション （１）チームケアの必要性 （２）チーム間の連携の在り方							講義・工藤		
3	リハビリテーションにおける評価 （１）リハビリテーション医療における到達目標と評価 （２）障害の評価							講義・工藤		
4	障害・症状別リハビリテーションの実践 （１）内部障害：呼吸器・心疾患のリハビリテーション							講義・菊池		
5	（２）身体機能障害：脳血管障害のリハビリテーション （リハビリの実践）							講義/演習・菊池		
6	（３）身体機能障害：脳血管障害のリハビリテーション （高次脳機能障害を含む）							講義・田邊		
7	（４）在宅でのリハビリテーション							講義・田邊		
8	単位認定試験									
教科書		系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院								
参考文献										
備考										

領 域		専門基礎分野		科目	公衆衛生学		担当	萩原 潤	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験			100%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
萩原 潤									
到達目標		公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。保健衛生行政や疾病の疫学と予防について理解する。							
授業概要		環境と人との関わりや、保健統計などによる現在の社会の状態を学んだ上で、健康にとって有害な要因を取り除くための社会に取り組みについて学習する。							
学習者への期待 (含む準備学習)		自分が所属する自治体のこと、そして自身の周りにある健康や保健に関する社会的な取り組みを調べてみてください。							
回数	授業内容						授業方法		
1	公衆衛生の概念と歴史		公衆衛生の活動対象				講義		
2	公衆衛生のしくみ		環境と健康 1				講義		
3	環境と健康 2						講義		
4	感染症とその予防策		国際保健				講義		
5	地域保健 1						講義		
6	地域保健 2						講義		
7	学校と健康		職場と健康		健康危機管理・災害保健			講義	
8	単位認定試験と解説								
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院							
参考文献		鈴木庄亮ほか「シンプル衛生公衆衛生学」南光堂、「国民衛生の動向」厚生労働統計協会							
備考									

領 域		専門基礎分野		科目	社会保障		担当		村山 くみ	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
2 年次	前期	1 単位	15時間	8 回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%	
担当者名		担当講義に関する実務経験								
村山 くみ										
到達目標		社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。								
授業概要		講義では、社会保障制度の変遷や仕組みについて学び、多様なニーズに対応するための保健・医療・福祉の連携の在り方について理解を深めます。								
学習者への期待 (含む準備学習)		予習：次回の授業内容を確認のうえ、テキストの該当箇所を読み、疑問点等を調べておいてください。 復習：授業で使用了プリントやテキストを読み返し、重要事項等をまとめてください。								
回数	授業内容							授業方法		
1	現代社会の理解							講義		
2	変動する現代社会と社会保障（定義・理念・機能）							講義		
3	社会保障の展開（歴史）							講義		
4	医療保障制度							講義		
5	介護保険制度							講義		
6	所得保障制度							講義		
7	生活保護制度							講義		
8	単位認定試験と解説							試験		
教科書		守本とも子 編「看護職をめざす人の社会保障と社会福祉」みらい								
参考文献		系統監護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院								
備考										

領 域		専門基礎分野		科目	社会福祉		担当	村山 くみ	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2 年次	前期	1 単位	15時間	8 回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
村山 くみ									
到達目標		社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。							
授業概要		講義では、社会福祉制度の変遷や仕組みについて学び、多様なニーズに対応するための保健・医療・福祉の連携の在り方について理解を深めます。							
学習者への期待 (含む準備学習)		予習：次回の授業内容を確認のうえ、テキストの該当箇所を読み、疑問点等を調べておいてください。 復習：授業で使用了プリントやテキストを読み返し、重要事項等をまとめてください。 その他：福祉に関するさまざまなニュースに目を通すよう心掛けてください。							
回数	授業計画							授業方法	
1	社会福祉と私たちの生活・社会福祉の実施体制と実施機関							講義	
2	児童家庭福祉							講義	
3	障害者福祉							講義	
4	高齢者福祉							講義	
5	地域福祉							講義	
6	ソーシャルワーク実践							講義	
7	保険医療と福祉の連携							講義	
8	単位認定試験と解説							試験	
教科書		守本とも子 編「看護職をめざす人の社会保障と社会福祉」 みらい							
参考文献		系統監護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院							
備考									

領 域		専門分野Ⅰ		科目	基礎看護学援助論Ⅷ		担当	宇野 由佳	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験			100%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
宇野 由佳		救急外来、ICU、HCUにおける臨床看護実践経験を有す							
鈴木 久美子		急性期・慢性期病棟で臨床看護実践経験を有す							
到達目標		1 診療の補助技術である与薬が安全・安楽に行われるための基礎知識、技術を修得する。 2 診察の補助技術である診察・検査が安全・安楽に行われるための基礎知識、技術を修得する。							
授業概要		看護の観察・情報収集について、シュミレーターや器具を用いて測定し、実技の演習を通し看護の実践力を高める。							
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能の知識が必要となります。関連する臓器について、講義までに復習し理解しておきましょう。							
回数	単元		授業内容					授業方法・担当	
1	1. 薬物療法と看護		与薬の基礎知識と薬の管理 与薬の種類・原則					講義・宇野	
2			経口与薬、外用薬、誤薬防止					講義・宇野	
3			筋肉内注射、皮下、皮内注射の方法と実際 輸血・抗がん剤投与時の管理と実際					講義・宇野	
4			注射器の取り扱い、アンプル、バイアルの薬液準備 皮下注射					演習・宇野	
5									
6			筋肉内注射					演習・宇野	
7									
8	2. 診察・検査に伴う看護		検体検査（尿、便検査、採血、血糖検査、喀痰検査）					講義・宇野 鈴木	
9			採血					演習・宇野 鈴木	
10									
11			生体情報のモニタリング 心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター					講義・宇野 鈴木	
12			心電図検査					演習・宇野 鈴木	
13									
14			診察・検査・処置の介助技術					講義。宇野 鈴木	
15	単位認定試験・まとめ							宇野 鈴木	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学Ⅲ） 医学書院							
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社							
備考									

領域		専門分野Ⅱ		科目	成人看護援助論Ⅰ		担当	内田 祝子（12） 高野 岳史（10） 斉藤 香織（8）	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%	
担当者名		担当講義に関する実務経験							
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す							
斉藤 香織		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す							
高野 岳史		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す							
達成目標		消化器系機能障害・呼吸器系機能障害・循環器系機能障害をもつ成人およびその家族の看護について理解できる。							
授業内容		系統別に消化器系機能障害・呼吸器系機能障害・循環器系機能障害をもつ対象への看護について、それぞれの主な疾患の症状、検査、治療を理解し、対象にとって日常生活に及ぼす影響や生活調整・自己管理に向けた援助について学ぶ。							
学習者への期待		成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にしています。基本から積み重ねた学習が必要となる。1年次の「人体の構造と機能学」「病態治療学」「成人看護概論」の復習をし、常に「何故」という問題意識をもって積極的に授業に臨んで欲しい。							
回数	単元			授業内容			授業方法・担当		
1	消化器系に障害のある対象の看護			成人看護学援助論の概要 消化器系機能障害を持つ対象の特徴と看護の役割 食道疾患を持つ対象の看護			講義 高野		
2				胃疾患を持つ患者の看護					
3				肝胆膵疾患を持つ患者の看護①					
4				肝胆膵疾患を持つ患者の看護②					
5				腸疾患を持つ患者の疾患					
6	呼吸器系に障害のある対象の看護			呼吸器系に障害を持つ対象の特徴と看護役割 呼吸器の症状・アセスメント・看護			講義 斉藤		
7				呼吸感染症、慢性閉塞性肺疾患の患者の看護					
8				肺癌・肺切除術を受ける患者の看護					
9				気胸・胸腔ドレーンを挿入している患者の看護					
10	循環器系に障害のある対象の看護			循環器障害をもつ対象の特徴と看護の役割 冠動脈疾患と症状、アセスメント、看護			講義 内田		
11				ペースメーカー挿入する患者の看護					
12				弁膜症をもつ患者の看護					
13				心不全をもつ患者の看護					
14				心臓手術（開胸術）を受ける患者の看護 心臓リハビリテーション					
15	単位認定試験 講義まとめ								
教科書		1. 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 [2]呼吸器 [3]循環器 [5]消化器 2. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4. 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 5. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護							
参考文献		随時提示							

領域		専門分野Ⅱ		科目	成人看護援助論Ⅱ			担当	鈴木 和子(24) 内田 祝子 (4)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	70%	レポート課題	30%	
担当者名		担当講義に関する実務経験								
鈴木 和子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す								
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す								
達成目標		慢性期患者の再調整を促す看護について理解する。 慢性期疾患を持つ患者の看護過程の展開方法ができる。								
授業内容		慢性疾患にある成人患者・家族に対してセルフケアを促し、慢性期との共存を支える看護援助方法を修得し、 看護過程が展開できる能力を養う。								
学習者への期待		常に「何故」という問題意識をもって積極的に授業に臨むようにする。 成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にしており、基本から積み重なた学習が必要になる。従って、 自分自身が何のために学習するかを明確にしながら、各年次の学習を丁寧に積み重ねて臨地実習に臨んで欲しい。								
回数	授業計画							授業方法・担当		
1	内分泌・代謝系に障害がある対象の看護		内分泌・代謝系患者の特徴とアセスメント 甲状腺疾患を持つ対象の看護 下垂体疾患を持つ対象の看護 糖尿病患者を持つ対象の看護					講義 鈴木		
2										
3										
4	看護診断を用いた看護展開方法		看護過程の基盤となる考え方 看護診断の意義と目的					講義		
5			ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメントの枠組み 慢性期のアセスメントの特徴					内田		
6			関連図作成の意義 統合（検証）、看護診断					講義		
7			看護目標の設定、看護計画、評価					鈴木		
8	紙上事例の看護展開の実際		看護過程の事例紹介(糖尿病) 情報収集、アセスメント、仮診断					講義・演習 鈴木		
9										
10			関連図の作成 統合（検証、仮診断から確定診）							
11										
12			目標設定 看護計画立案							
13										
14			SMBG インスリン手技の実際							
15	単位認定試験 講義まとめ									
教科書		1 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 2 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [1] 成人看護学総論 [11] 内分泌・代謝 3 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 4 NANDA－Ⅰ看護診断（第11版）2019－2020 医学書院								
参考文献		1 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論（第2版）学研 2 アセスメント覚え書ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院								

領 域		専門分野Ⅱ		科 目	成人看護学援助論Ⅲ		担 当	鈴木 晴美 (12) 斉藤 香織 (8) 鈴木 和子 (8)				
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法						
2 年次	前期 後期	1 単位	30時間	15回	講義	単位認定試験			100%			
担当者名		担当講義に関する実務経験										
鈴木 晴美		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す										
斉藤 香織		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す										
鈴木 和子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す										
到達目標		系統別に脳神経系障害・運動器、血液・造血器、アレルギー・膠原病系障害・腎・泌尿器系の障害をもつ成人およびその家族の看護について理解できる。 がんの特殊性を多角的に捉え、患者・家族のQOLを高め、患者と家族が主体的に生きるための看護支援、人生の最期の時を支える看護について理解する。										
授業内容		系統別に脳神経系障害・運動器、血液・造血器、アレルギー・膠原病系障害・腎・泌尿器系障害をもつ対象への看護について、それぞれの主な疾患の症状、検査、治療を理解し、対象にとって日常生活に及ぼす影響や生活調整・自己管理に向けた援助について学ぶ。 がん、終末期にある成人患者・家族に対して生活を支える看護援助方法を理解する。										
学習者への期待		成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にしています。基本から積み重ねた学習が必要となります。1年次の「人体の構造と機能学」「病態治療学」「成人看護概論」の復習をし、常に“何故”という問題意識をもって積極的に授業に臨んで下さい。生命の危機的状況にある患者の心身の安全・安楽の提供と共に、正確で迅速な看護技術を身に付けてほしい。 がんの特殊性を多角的に理解するため、既存の学習を踏まえ、常に問題意識をもって積極的に授業に臨んでほしい。										
回数	単元			授業内容			授業方法・担当					
1	脳・神経系に問題のある患者の看護			脳・神経系に問題のある患者の特徴と看護の役割			講義 齋藤					
2				主な症状の観察とアセスメント								
3				検査・処置・治療を受ける患者への看護								
4				病期や機能障害に応じた看護								
5	運動器に問題のある患者の看護			患者の特徴とアセスメントと看護 主な疾患の治療と看護			講義 鈴木和					
6												
7	血液・造血器系に問題のある患者の看護			患者の特徴とアセスメントと看護								
8	アレルギー・膠原病・感染症の患者の看護			患者の特徴とアセスメントと看護								
9	腎・泌尿器系に問題のある患者の看護			腎・泌尿器系に問題のある患者の特徴と看護			講義 鈴木晴					
10				主な症状の観察とアセスメント 検査・治療を受ける患者への看護								
11				病期や障害に応じたアセスメントと看護								
12	がん看護			がんの特殊性、予防・早期発見・患者のQOL、倫理的問題								
13				がん患者の看護								
14				がん治療に対する看護								
15	単位認定試験 講義まとめ											
教科書		1 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 〔1〕成人看護学総論 〔2〕脳神経 〔3〕運動器 〔5〕血液。造血器 〔6〕アレルギー・膠原病・感染症 〔7〕腎・泌尿器 2 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4 山勢博彰・山勢善江他編集：系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 5 系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 6 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 7 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 8 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護										
参考文献		1 高齢者と成人の周手術期看護 4 脳神経疾患で手術を受ける患者の看護 2 高齢者と成人の周手術期看護 5 運動器疾患で手術を受ける患者の看護										

領 域	専門分野Ⅱ		科 目	成人看護学援助論Ⅳ		担 当	高野 岳史(20) 内田 祝子(8)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	後期	1 単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	70%	
						レポート課題	30%	
担当者名			担当講義に関する実務経験					
高野 岳史		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す						
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す						
到達目標		急性期および周手術期にある患者・家族の身体・心理・社会的特徴を理解する。 紙上事例を通して急性期及び周手術期にある患者・家族に看護過程を展開する。						
授業概要		急激に健康破綻を来たした患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、心身の侵襲に伴う変化への対応と回復への適応がはかれる知識を修得し、看護過程が展開できる能力を養う。						
学習者への期待 (準備学習含む)		急性期・手術を受ける患者の容態変化は大きいため、その過程を既知の病態治療学と関連づけ、アセスメント能力を身につけ、事例での看護展開が遅れることのないように臨んで欲しい。						
回数	単元		授業内容			授業方法・担当		
1	手術を受ける患者の看護		急性期・周手術期看護ガイダンス 手術前看護			講義 内田		
2			手術中看護					
3			手術後看護① 生体侵襲 手術後合併症の予防と看護					
4			手術後看護② 術後患者の観察・アセスメント					
5			手術後看護③ 創傷治癒過程、 回復促進へ向けての看護			講義 高野		
6 7	手術を受ける患者の 看護展開の実際		周手術期の看護過程の展開方法 事例紹介 周手術期のアセスメントの特徴 術前：情報の整理、アセスメント（分析・解釈）			講義 演習 高野他		
8			関連図の作成					
9			術前：統合（検証、仮診断から確定診断）、確定診断、 看護目標、看護計画作成					
10 11			術後：情報の整理、アセスメント、仮診断、全体像、統合					
12 13			術後：確定診断、看護目標、看護計画立案					
14			実施・評価の記載方法					
15			単位認定試験 まとめ					
教科書		1 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 2 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 5 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 6 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 7 NANDA－I看護診断（第11版）2019－2020 医学書院						
参考文献		1 江川隆子著：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、 ヌーヴェルヒロカワ						

領 域		専門分野Ⅱ		科 目	成人看護学援助論Ⅴ		担 当	斉藤 香織	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2 年次	後期	1 単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		60%	
						レポート・演習態度		40%	
担当者名		担当講義に関する実務経験							
斎藤 香織		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す							
到達目標		急激健康破綻を来たした患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、看護問題を明確化し、生命の危機的状況に働きかける知識・技術を修得して、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出すように働きかける看護能力を養う。							
授業概要		急激に健康破綻を来たした患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、心身の侵襲に伴う変化への対応と回復への適応がはかれる看護技術を習得する。							
学習者への期待 (準備学習含む)		急性期及び周手術期にある患者の安全と人間としての尊厳を守る看護者としての能力及び良識を育むよう努めてほしい。 これまで学習した基礎看護学・病態治療学・成人看護学概論・成人看護学援助論Ⅰで学んだ知識と技術を振り返り、関連性を持って学習してほしい。 3 看護・医療技術を正確に迅速に修得できるよう、集中力と緊張感をもって臨んでほしい。							
回数	単元		授業内容				授業方法・担当		
1	急性機能不全患者の看護		救急看護 1				講義 斉藤		
2			救急看護 2						
3			集中治療室の看護						
4			1 2 誘導心電図の実際						
5	周手術期の看護技術		周手術期技術演習ガイダンス 1				講義 演習 斉藤		
6			術後ベッドの作成						
7			周手術期技術演習ガイダンス 2						
8			創傷管理、ストーマ、ドレーン管理				講義 演習 斉藤		
9									
10			呼吸・循環状態・意識状態などの観察、アセスメント				講義、演習 斉藤		
11									
12			呼吸器合併症の予防技術・早期離床の促進技術						
13									
14			看護技術のまとめ						
15	単位認定試験								
教科書		1. 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 2. 矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 3. 北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 4. 山勢博彰・山勢善江他編集：系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 5. 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 6. 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 7. 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護							
参考文献		随時提示							

領 域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学援助論Ⅰ		担当	猪狩 綾		
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	80%	レポート	20%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
猪狩 綾		急性期・慢性期病棟、精神科病棟で看護実践経験あり。							
到達目標		1 老年者の日常生活上における援助ニーズを理解できる。 2 老年者の特性をふまえた援助方法を理解できる。 3 老年者のQOL向上を目指した健康増進プログラムを理解できる。							
授業概要		加齢変化、疾患、障害に関連してとらえ、基本動作を基盤とした生活行為と生活リズムの援助技術を学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		老化に伴う生理的変化と疾患とのつながりを理解し予防的な関わりについて学んでほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法・担当		
1	4章 高齢者のヘルスアセスメント		A ヘルスアセスメントの基本				講義		
2			B 身体に加齢変化とアセスメント（皮膚・視聴覚）				講義		
3			（循環系・呼吸系・消化器系・ホルモン・泌尿生殖器系・運動系）				講義		
4	5章 高齢者の生活機能を整える看護		A 日常生活を支える基本的活動（基本動作と環境）				講義		
5			〃 （転倒・廃用症候群のアセスメントと看護）				講義		
6			B 食事・食生活 アセスメントと看護				講義		
7			口腔の変調・嚥下機能（とろみ剤の使用）				講義/演習		
8			C 排泄 アセスメントと看護				講義		
9			排泄障害 （臥位・立位でのおむつ交換）				講義/演習		
10			D 清潔 アセスメントと看護				講義		
11			清潔のケア				講義		
12			E 生活リズム アセスメントと看護				講義		
13			F コミュニケーション アセスメントと看護				講義		
14			G セクシャリティ・社会参加				講義		
15	単位認定試験		単位認定試験 まとめ				試験/講義		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院							
参考文献									
備考									

領 域		専門分野Ⅱ		科目	老年看護学援助論Ⅱ		担当	本木 泉					
開講年次		開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法						
2 年次		前期	1 単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		100%				
担当者名			担当講義に関する実務経験										
本木 泉			病院及び老健施設での老年看護実務経験をあり。										
到達目標			1 高齢者に特有な健康障害が理解できる。 2 健康障害に応じた援助方法が理解できる。										
授業概要			老年特有な疾患理解とともに、生活障害や合併症・二次障害を踏まえ、どのような場面でのような看護が実践されているのかを学んでいく。										
学習者への期待 (含む準備学習)			老化や生活習慣などによってどのような疾患がおきやすいか、予防も含め必要な看護を学んでほしい。										
回数	項目			授業内容				授業方法					
1	検査・治療を受ける高齢者への看護			(1) 入院治療と看護 検査と看護 栄養ケアマネジメント				講義					
2				(2) 薬物療法と看護				講義					
3				(3) 放射線療法・化学療法と看護				講義					
4				(4) 手術療法と看護 (5) リハビリテーションと看護				講義					
5	疾患を持つ高齢者への看護			1 老年特有の疾患 (1) 脳卒中 (2) 心不全(うっ血性心不全) (3) パーキンソン病・パーキンソン症候群				講義					
6													
7				(4) インフルエンザ (5) 肺炎 (6) 感染性胃腸炎 (7) 糖尿病 (8) 慢性閉塞性肺疾患 (9) 骨粗鬆症 (10) 骨折 (11) 褥瘡				講義					
8													
9													
10	認知機能障害のある 高齢者の看護			(1) うつ (2) せん妄 (3) 認知症				講義					
11	エンド・オブ・ライフケア			(1) エンド・オブ・ライフケアの概念 (2) 「生ききる」ことを支えるケア (3) 意思決定への支援 (4) 末期段階に求められる援助				講義					
12	生活・療養の場における看護 の展開			(1) 高齢者とヘルスプロモーション (2) 保健医療福祉施設及び居住施設における看護				講義					
13				(3) 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 (4) 多職種連携実践による活動				講義					
14	高齢者の リスクマネジメント			(1) 高齢者と医療安全 (2) 高齢者と救命救急 (3) 高齢者と災害				講義					
15	単位認定試験			単位認定試験 まとめ				試験／講義					
教科書			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院										
参考文献			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院										
備考													

領 域		専門分野Ⅱ		科目	老年看護学援助論Ⅲ		担当	猪狩 綾 高橋 さくら	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2 年次	後期	1 単位	15時間	8 回	講義 演習	看護過程 レポート	70%	アクティビティ 評価	30%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
猪狩 綾		急性期・慢性期病棟、精神科病棟での老年看護実践経験あり。							
高橋 さくら		急性期・慢性期病棟での老年看護実践経験あり。							
到達目標		1 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護問題を理解する。 2 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。							
授業概要		生活機能をもとにアセスメントし実践場面で応用できる思考を養うために、高齢者の特徴的な事例を提供し考えさせる。							
学習者への期待 (含む準備学習)		事例をもとに、生活機能重視の高齢者の「もてる力」を引き出し、老化による廃用症候群の予防を組み込んだ看護計画を立案できるようになってほしい。							
回数	項目			授業内容			授業方法・担当		
1	看護過程の展開			看護過程 高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方 (1) ゴードンによる機能的健康パターンについて 事例紹介・看護展開の進め方			講義 高橋		
2	「大腿骨頸部骨折の高齢者」 看護過程の展開			(2) 情報とカテゴリー分類 アセスメントと仮診断			講義・演習 高橋		
3				(3) 関連図 看護診断			講義・演習 高橋		
4				(4) 看護計画作成 (GW)			講義・演習 高橋		
5				(5) 看護計画発表			講義・演習 高橋		
6				(6) アクティビティ企画 (GW)			講義・演習 高橋		
7				(7) アクティビティ発表			講義・演習 高橋		
8	学習のまとめ			もてる力を引き出すケアとは DVD			講義・演習 高橋		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院							
参考文献									
備考									

領 域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学概論 (看護の対象と理解)		担当	庄司 宗和	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2 年次	前期	1 単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	60%	
						レポート	40%	こども観10% 自分史 10% 成長発達20%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
太田 久子		小児専門病院での看護実践，管理業務，看護教員，看護全般にわたる経験を有す						
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す						
中川 佑奈		臨床（小児救急を含む三次救急・集中治療室等）、看護全般にわたる経験を有す						
到達目標		子どもの健康的な成長発達過程を学び、それぞれの過程の基本的な理解と子どもや家族を取り巻く社会環境を学びながら、小児看護の役割や課題について理解できる。						
授業概要		小児看護の特徴と理念についての学習を基に、子どもの成長・発達の特徴と看護について学ぶ。さらに小児看護の対象となる家族を理解し子どもを取り巻く社会について学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		子どもの成長発達の特徴と看護については国家試験にも多く取上げられる重要なところなので、予習をして臨んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	小児看護の特徴と理念		小児看護の目的 小児と家族の諸統計				講義・庄司	
2			小児看護の変遷と課題 小児看護における倫理虐待と看護					
3			正しいこども観とは				演習・庄司	
4								
5	子どもの成長発達		子どもの成長発達と評価 子どもの栄養				講義・庄司	
6			成長発達の理解 (新生児・乳児期・幼児期・学童期・思春期) ・ガイダンス ・協同学習 ・まとめ				演習・庄司	
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13	家族の特徴とアセスメント		家族とは 現代家族の特徴 家族アセスメント 子どもと家族を取り巻く社会 ・予防接種 ・学校保健				講義・庄司	
14	病気や障害を持つ子どもと家族の看護		病気・障害が子どもと家族に与える影響子どもの健康問題と看護 入院中の子どもと家族の看護外来、在宅療養中の子どもと家族の看護				講義・中川	
15	単位認定試験、まとめ						試験・庄司	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学概論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディアカ						
参考文献		子どもの発達がわかる本 金子龍太郎 ナツメ社 子どもの育ちと保育：環境・発達・かかわりを考える 金子書房 など						
備考								

領 域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅰ		担当	庄司 宗和		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2 年次	前期	1 単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	70%		
						レポート	30%	プレパレーション10% 技術演習 20%	
担当者名		担当講義に関する実務経験							
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す							
中川 佑奈		臨床（小児救急を含む三次救急・集中治療室等）、看護全般にわたる経験を有す							
到達目標		子どもの健康障害によって生じる諸問題を理解し、それに伴う適切な看護援助方法が理解できる。							
授業概要		子どもを取り巻くさまざまな諸問題に対する適切なアセスメント方法と看護援助方法を学ぶ。							
学習者への期待 （含む準備学習）		1 年次に基礎看護学で学んだ、人体構造・機能学、病態治療学についての復習をして臨むことを期待する。							
回数	項目		授業内容				授業方法・担当		
1	病気や障害を持つ 子どもと家族の看護		慢性期、急性期にある子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の看護				講義 庄司		
2			周手術期、終末期の子どもと家族の看護						
3	プレパレーション		プレパレーション ・講義、ガイダンス、事例紹介 ・ロールプレイ発表 ・まとめ、総括				演習庄司・中川		
4									
5									
6	身体のアセスメント 子どもが示す症状と 看護		アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント 1				講義庄司・中川		
7			身体的アセスメント 2						
8			症状を示す子どもの看護						
9	検査・処置を受ける 子どもの看護		検査、処置時の看護				講義・庄司		
10									
11	小児看護に必要な技術		・バイタルサインの測定・移動の援助 （抱っこ、ベビーカー） ・身体計測 ・抑制（おくる身法、点滴の固定方法） ・検査・処置時の看護（座薬、腰椎穿刺）				演習・庄司 中川		
12									
13									
14									
15			単位認定試験 まとめ				試験・庄司		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学 2 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ							
参考文献		・疾患別小児看護 中央法規出版 ・児童虐待おかやま116人の提言 吉備人出版							

領 域		専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅱ		担当	飯沼 一字 庄司 宗和	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験			100%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
飯沼 一字		東北大名誉教授・石巻赤十字看護専門学校長 認定NPO法人理事長・小児科専門医・小児神経専門医・てんかん専門医							
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す							
中川 佑奈		臨床（小児救急を含む三次救急・集中治療室等）、看護全般にわたる経験を有す							
到達目標		子どもの疾患とそれらの病態及び治療法について理解し、そこから生じる諸問題への適切な看護援助方法が理解できる。							
授業概要		子どもの疾患やそれらの病態及び治療法、そこから生じる問題に対する看護援助方法を学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		1年次に基礎看護学で学んだ、人体構造・機能学、病態治療学についての復習をして臨むことを期待する							
回数	単元		授業内容				授業方法・担当		
1	1. 子どもに関連する疾患の病態と治療		小児科とは・染色体異常・先天異常・新生児				講義・飯沼		
2			免疫疾患・アレルギー性疾患・自己免疫疾患				講義・飯沼		
3			感染症				講義・飯沼		
4			呼吸器疾患・循環器疾患				講義・飯沼		
5			消化器疾患・代謝性疾患・内分泌疾患				講義・飯沼		
6			血液、造血器疾患・悪性新生物				講義・飯沼		
7			腎・泌尿器および生殖器疾患・				講義・飯沼		
8			神経疾患・運動器疾患・精神疾患				講義・飯沼		
9	2. 主な疾患とその子どもの看護		染色体異常・先天異常と看護 代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患と看護				講義・庄司		
10			呼吸器疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護				講義・庄司 中川		
11			感染症・事故・外傷と看護				講義・庄司 中川		
12			循環器疾患・血液、造血器疾患と看護 消化器疾患・悪性新生物と看護				講義・庄司 中川		
13			腎・泌尿器および生殖器疾患と看護				講義・庄司		
14			神経疾患・運動器疾患・皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患・精神疾患				講義・庄司		
15			単位認定試験、まとめ				試験・庄司		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院							
参考文献		・疾患別小児看護 中央法規出版							

領 域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅲ		担当	庄司 宗和	
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2 年次	後期	1 単位	15時間	8 回	演習	グループワーク，レポート		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す						
到達目標		演習を通して、子どもを対象とした看護過程の展開方法について学ぶことができる。						
授業概要		子どもの主要な疾患を中心にそれらの病態及び治療法について学び、その知識を基に紙上事例での看護過程の展開を行う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		大切な基礎である病態をしっかりと学び、基礎看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。						
回数	単元		授業内容				授業方法・ 担当	
1	看護過程の展開		看護過程の展開（ガイダンス、グループワーク演習１）				演習・庄司	
2			看護過程の展開（グループワーク演習２），まとめ					
3			看護過程の展開（グループワーク演習３），まとめ					
4			看護過程の展開（グループワーク演習４），まとめ					
5			看護過程の展開（グループワーク演習５），まとめ					
6			看護過程発表会					
7			看護過程発表会					
8			総括					
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 科学的看護論 薄井坦子						
参考文献		ナースが見る病気 薄井坦子						
備考		・紙上事例の症例は脳性まひの事例を展開する。 ・評価は評価表に沿って行う。評価表は前もって学生に提示するものとする。						

領域	専門分野Ⅱ		科目	母性看護学概論 (看護の対象と理解)		担当	小長根恵美子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
小長根恵美子		助産師の資格を有し、臨床及び教育の経験も長い。					
到達目標		母性の概念と母性看護の意義・特性を理解し、母性看護の置かれている現状と動向をふまえて女性 のライフサイクルにおける思春期・成熟期・更年期・老年期の母性看護のあり方が理解できる。 さらに母性看護を取り巻く、家族・性と生殖などの問題について学び理解することができる。					
授業概要		母性看護の概念の学習から始まり、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状を学びつつ母性看護学 の対象の理解に繋げていく。また、女性のライフステージ各期における看護についてはリプロダク ティブ・ヘルツ／ライツの概念とともに学びを深める。					
学習者への期待 (含む準備学習)		女性を取り巻く感染症や、虐待を含めた社会の状況や喫煙の害などにも興味を持って学習に臨 んで欲しい。					
回数	項目		授業内容				授業方法 担当教員
1	母性看護の概念		母性看護の基盤となる概念：母性とは、母子関係と家族				講義
2			セクシャリティ：セクシャリティとは、セクシャリティの発達と課題 リプロダクティブ・ヘルツ／ライツヘルスプロモーション				講義
3	母性看護を取り巻く社会の変遷と現状		母性看護の歴史的変遷と現状：母性看護の変遷				講義
4			母性保健統計の動向				講義
5			母性看護の対象を取り巻く環境				講義
6	母性看護の対象の理解		女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化				講義
7			女性のライフサイクルと家族				講義
8			母性の発達・成熟・継承				講義
9	女性のライフステージ各期における看護		思春期の健康と看護				講義
10			成熟期の健康と看護				講義
11			更年期、老年期の健康と看護				講義
12	リプロダクティブヘルスケア		家族計画・性感染症予防・HIV感染症				講義
13			喫煙・性暴力虐待				講義
14			国際社会と看護				講義
15			単位認定試験・まとめ				試験
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院					
参考文献		リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス 谷口真由美 南山堂 「若者の性」白書 第7回 日本児童教育振興財団 小学館					

領域	専門分野Ⅱ		科目	母性看護学援助論Ⅰ		担当	宇野 由佳	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2 年次	前期	2 単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験80％ 小テスト20％ 100%		
担当者名		担当講義に関する実務経験						
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有す						
到達目標		1.リプロダクティブ・ヘルスの向上を目指した支援について理解できる 2.妊娠期・分娩期の正常な経過が理解できる 3.妊婦・産婦の特徴を学び、必要な看護について理解し、考えることができる 4.妊娠期・分娩期の異常について理解できる 5.妊娠・出産時における看護技術が理解できる						
授業概要		妊婦及び家族援助について理解し、妊婦や胎児のアセスメント、保健指導、家族を含めた看護を学ぶ。また分娩期の産婦及び家族援助について理解し、アセスメントと看護の実際を学ぶ。						
学習者への期待 （含む準備学習）		母性看護学概論を復習し、母性看護学に興味をもって講義に臨んでほしい。						
回数	授業内容					授業方法・担当		
1	母性の発達を促す看護		子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって 出生前からのリプロダクティブヘルスケア			講義 野辺地		
2	妊娠期における看護		妊娠期における看護① 妊娠期の身体的特徴 妊娠期の心理・心理的特性			講義 野辺地		
3			妊娠期における看護② 妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護			講義 野辺地		
4			妊婦の看護にかかわる技術① 妊婦のヘルスアセスメント（妊婦健康診査）レオポルド触診法 腹囲・子宮底測定・ 胎児心拍聴取			講義・演習 野辺地		
5			妊婦の看護にかかわる技術② 胎児超音波断層法 胎児心拍数図 食事と栄養の支援			講義・演習 野辺地		
6			妊婦の看護にかかわる技術③ 妊婦体操（マタニティヨガ）			講義・演習 野辺地		
7			妊婦の看護にかかわる技術④ 妊娠カレンダーの作成（グループワーク）			講義・演習 野辺地		
8			妊娠期の異常と看護 妊娠期間の異常 前置胎盤 常位胎盤早期剥離・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・感染症等			講義 野辺地		
9			分娩期における看護		分娩期の看護① 分娩の要素 分娩の経過			講義 野辺地
10	分娩期の看護② 産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護				講義 野辺地			
11	分娩期の異常と看護 前期破水・産科出血・胎児機能不全・帝王切開術等				講義 野辺地			
12	産婦の看護にかかわる技術① 分娩期の看護の実際（グループワーク）				講義・演習 野辺地			
13	産婦の看護にかかわる技術② 分娩期の看護の実際（グループワーク）				講義・演習 野辺地			
14	まとめ（これまでの講義の振り返り 終講試験に向けての説明					講義 野辺地		
15	単位認定試験					試験		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院						
参考文献		カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 医歯薬出版						

領域		専門分野Ⅱ		科目	母性看護学援助論Ⅱ		担当	宇野 由佳	
開講年次		開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2 年次		後期	1 単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験80％ 小テスト20％		100％
担当者名			担当講義に関する実務経験						
野辺地 郁子			周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有す						
到達目標			1.女性生殖器疾患を有する患者及び家族の身体・心理・社会的特徴を捉え、看護援助について理解する。 2.産褥・新生児期の各期の特徴を知り、必要な看護援助について理解する。 3.産褥・新生児期に起こりうる異常と看護について理解できる。 4.褥婦のセルフケア能力が維持・促進できる看護支援について理解できる。 5.褥婦及び新生児とその家族の看護支援方法が理解できる。						
授業概要			女性生殖器疾患を有する患者及び家族について理解し、ライフステージ各期における特徴的な病態生理と治療を必要な看護実践を考える。 褥婦・新生児及び家族看護の重要性を理解し、アセスメントと看護の実際を学ぶ。						
学習者への期待 （含む準備学習）			病態治療学・成人看護学援助論で学んだ知識を振り返り授業に臨むこと。母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰで学んだことを復習して授業に臨み、母子及び家族看護について考えてほしい。						
回数	単元		授業内容					授業方法 担当教員	
1	成人看護学		女性生殖器疾患患者の看護を学ぶにあたって 女性生殖器の構造と機能 患者の看護①					講義 野辺地	
2	女性生殖器疾患を持つ患者の看護		患者の看護②					講義 野辺地	
3			患者の看護③					講義 野辺地	
4	産褥期の看護		褥婦の看護① 産褥経過・褥婦の看護					講義 野辺地	
5			母乳育児と看護					講義・演習 野辺地	
6			産褥期の異常と看護 子宮復古不全・産褥熱・産褥精神病					講義 野辺地	
7			褥婦の看護にかかわる技術① 褥婦のヘルスアセスメント （子宮底の輪状マッサージ・悪露・会陰部・創部のアセスメント）					講義・演習 野辺地	
8			褥婦の看護にかかわる技術② 帝王切開術後のケア・産褥体操（骨盤底筋体操）					講義・演習 野辺地	
9	新生児期の看護		新生児の看護① 新生児の生理					講義 野辺地	
10			新生児の看護② 新生児のアセスメント・新生児の看護					講義 野辺地	
11			新生児期の異常と看護 新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児・高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏性出血症					講義 野辺地	
12			新生児の看護にかかわる技術①② 新生児の計測 バイタルサイン測定衣類の交換 お むつ交換 抱き方と寝かせ方 排気					講義・演習 野辺地	
13									
14	まとめ（講義の振り返り・終講試験についての説明）							講義 野辺地	
15	単位認定試験							試験	
教科書			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学Ⅸ 医学書院						
参考文献			カラー写真で学ぶ 周産期の看護技術 カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術						

領域		専門分野Ⅱ		科目	母性看護学援助論Ⅲ		担当	宇野 由佳		
開講年次	開講時期	単位	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
2 年次	後期	Ⅰ 単位	15時間	8 回	講義 演習	課題提出	30%	看護過程	70%	
担当者名		担当講義に関する実務経験								
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有す								
到達目標		妊娠・分娩・産褥・新生児各期の身体的・心理的・社会的特徴を知り、看護に必要な健康状態のアセスメントの視点を学ぶ。また看護対象者の健康状態の促進やセルフケア能								
授業概要		産褥と新生児の特性や基礎的な看護技術の知識を活用し、事例をもとに看護過程を展開する。								
学習者への期待 （含む準備学習）		母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱの復習をし、講義に臨んでほしい。								
回数	単元		授業内容					授業方法・担当		
1	新生児期の看護		沐浴①②（沐浴・更衣・おむつ交換）					演習 野辺地		
2								演習 野辺地		
3	看護過程の演習		母性看護における看護過程 ウェルネス型看護診断について					講義・演習 野辺地		
4			看護過程の展開（講義・事例紹介・グループワーク①）					講義 野辺地		
5			看護過程の展開（グループワーク②）					演習 野辺地		
6			看護過程の展開（グループワーク③）					演習 野辺地		
7			看護過程の展開 （グループワーク演習：発表、事例展開の解説）					演習 野辺地		
8			まとめ					講義 野辺地		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版								
参考文献		カラー写真で学ぶ 周産期の看護技術 医歯薬出版 カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術 医歯薬出版								

領域	専門分野Ⅱ		科目	精神看護学援助論Ⅰ (精神疾患の診断・治療及びケアの方法)		担当	中川 誠秀 吉村 淳 山田 和男 阿部 利寿	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
中川 誠秀		病院にて精神科医師として病院勤務						
吉村 淳		病院にて精神科医師として病院勤務						
山田 和男		病院にて精神科医師として病院勤務						
阿部 利寿		精神科救急を含む急性期から慢性期までの精神科全般の実務経験あり						
到達目標		1 自己を振り返り、自己洞察の必要性を理解する。 2 個人とそれを取り巻く人々の関係を理解する。 3 精神科におけるケアの基本を理解する。 4 主な精神障害とその症状、治療の基本を理解する。						
授業概要		主な精神疾患・症状・検査や援助の基礎的知識と考え方を理解し、回復過程に応じた看護や援助方法を理解する。また、自己の傾向性を踏まえながら基本的なコミュニケーション技術を用い治療的に対象と関わる方法を理解する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		ここで学ぶコミュニケーション・スキルはどの診療科に行っても通用しますので、確実に身に付けてください。疾患については十分に復習して理解することが望まれます。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	精神科における対象について		精神を病むことと生きること、 精神症状とは・さまざまな精神症状				講義・阿部	
2			ケアする相手について知る、関係性を理解する				講義・阿部	
3	ケアの人間関係		ケアの前提・原則 (人としての尊厳を尊重する、互いの境界をまもる)				講義・阿部	
4			ケアの方法 そばにすること・遊びとユーモア・話す・聞く 演習(視線・立ち方・すわる位置・声のトーンなど)				講義/演習 阿部	
5	精神科での診断・治療・検査		統合失調症				講義・中川	
6			気分障害(双極性障害、及び関連障害、抑うつ障害)				講義・山田	
7			神経症性障害、ストレス関連障害、及び身体表現性障害、 神経発達障害、精神作用物質使用による精神及び行動障害				講義・中川	
8			生理的障害、及び身体的要因に関連した行動症候群、 パーソナリティ障害				講義・山田	
9			器質性精神障害、てんかん、認知症				講義・吉村	
10	集団の役割と援助の方法		全体としての家族・家族療法の考え方と技法、 集団の中の自己				講義・阿部	
11			人間と集団(グループダイナミクス、グループの実践)				講義・阿部	
12	サバイバーとしての患者と そのケア		受け入れがたい行動を示す患者たち				講義・阿部	
13			心的外傷への着目				講義・阿部	
14			回復への道程				講義・阿部	
15	単位認定試験と解説						客観テスト	
教科書		系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	精神看護学(1) 精神看護学(2)	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院		
参考文献								
備考								

領域		専門分野Ⅱ		科目	精神看護学援助論Ⅱ (精神看護とサポート)		担当	藤田 亨 坂元 洋生 加賀谷 恵美子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2 年次	後期	1 単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験			100%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
加賀谷 恵美子		精神科病棟での実務経験あり							
藤田 亨		精神科病棟看護師として病院勤務							
坂元 洋生		精神科病棟看護師として病院勤務							
到達目標		1 精神科看護の基本を理解する。 2 患者-看護師間における対人関係を保つための手法を理解する。 3 精神科における身体ケアを理解する。 4 地域における支援と地域リハビリテーションについて理解する。 5 看護における感情労働として、適切に自分の感情を管理し、対処する方法を理解する。							
授業概要		精神科における看護の役割を理解し、対人関係を保つための手法を学ぶ。また、精神科領域で生じやすい身体的症状や地域における支援と地域リハビリテーションについて学ぶ。更に感情労働としての側面を理解し、自己の感情コントロールと対処方法について学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		精神疾患をもつ対象者は、我々と変わりのない人々であることを理解すると共に、我々自身が感情労働に支配されることなく、燃え尽きないことが大切です。							
回数	項目			授業内容				授業方法・担当	
1	精神科における看護の役割			対象にとっての入院とは・入院治療のメリットとデメリット・入院時のアセスメントの必要性				講義・加賀谷	
2				治療的環境を理解する・精神科病棟の特徴と看護師の役割				講義・加賀谷	
3				安全をまもる (リスクマネジメントの考え方と方法・災害時のケア)				講義・加賀谷	
4				緊急事態への対応（自殺・暴力・離院、拘束）				講義・坂元	
5				回復を助ける 1 (回復とは何か・回復を支えるさまざまなプログラム（SST含む）)				講義・坂元	
6				回復を助ける 2 (回復を支えるさまざまなプログラム：集団精神療法の実践)				講義・坂元	
7	患者-看護師関係における感情体験			転移・逆転移、感情の容器、肯定的感情と否定的感情、医療の場のダイナミクス（病棟・チーム・カンファレンスなど）				講義・藤田	
8				対処のむずかしい場面（患者からの攻撃・拒否など）				講義・藤田	
9	身体ケアについて			精神科における身体ケアについて、身体にあらわれる心の痛み、精神療法としての身体ケア、抗精神病薬の有害反応、電気けいれん療法の看護				講義・藤田	
10				身体合併症、身体ケアの実践				講義・藤田	
11				睡眠について、自傷行為・心的外傷への着目と回復へのケア				講義・藤田	
12	地域における精神看護			地域で生活するための原則、生活を支える制度・地域で精神障害者を支援するための方法				講義・加賀谷	
13				地域での看護の実践、学校と職場におけるメンタルヘルス対策				講義・加賀谷	
14	看護における感情労働			看護師の不安と防御、感情労働としての看護、看護師の感情ワーク、看護における共感、感情労働の代償				講義・加賀谷	
15	単位認定試験と解説							客観テスト	
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（１） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（２） 精神看護の展開 医学書院							
参考文献									
備考									

領域		専門分野Ⅱ		科目	精神看護学援助論Ⅲ (看護過程の展開)		担当	阿部 利寿		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
2 年次	後期	1 単位	15時間	8 回	講義 演習	レポート	90%	授業態度	10%	
担当者名		担当講義に関する実務経験								
阿部 利寿		精神科救急を含む急性期から慢性期までの精神科全般の実務経験あり								
到達目標		1 オレムのセルフケア理論の看護論を活用し、精神を病む対象の看護問題のとらえ方や看護計画の視点を理解する。 2 自己決定を促す看護を理解する。 3 生活援助の必要な精神疾患事例を通し精神看護を考察する。								
授業概要		統合失調症の模擬患者の事例を用いて、ゴードンの機能的健康パターンに基づいた看護過程の展開を通して、精神障害を持つ対象及びその家族への理解を深める手立てとする。								
学習者への期待 (含む準備学習)		看護過程の展開は、精神疾患をもつ対象者であっても何ら変わりのないことを理解し、少しでも精神科実習への偏見が薄まることを期待します。								
回数	単元			授業内容				授業方法		
1	関係をアセスメントする			関係のアセスメントの必要性 精神科におけるプロセスレコードの活用・事例提示				講義		
2				プロセスレコードをもとにグループワーク				講義/GW		
3	看護過程の展開			統合失調症患者の看護過程（講義）、 事例紹介、情報の整理及び分析（自己学習）				講義		
4				事例展開 情報の整理及び分析				講義/演習		
5				事例展開 分析～問題点の抽出～関連図				講義/演習		
6				事例展開 問題点の抽出～目標設定～看護計画立案				講義/演習		
7				事例展開 実施、評価、修正の視点				講義/演習		
8				看護過程のまとめ				講義/演習		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（１） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（２） 精神看護の展開 医学書院								
参考文献		ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ニューベルヒロカワ								
備考										

領域	専門基礎分野Ⅱ		科目	成人看護学実習Ⅰ (慢性期)		担当	内田 祝子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次 3年次	後期 前期	3単位	135時間	1 回	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有す						
授業内容		慢性疾患に罹患している成人の対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に、看護過程とセルフケア等看護理論を活用し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を実践する能力を養う。実習においては、慢性的な健康問題により、ストレス・危機的状況にある成人の対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に、問題解決の系統的アプローチとセルフケア等の看護諸理論を適用して、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を実践する能力を養うことを目的とする。						
学習者への期待 (含準備学習)		基礎看護学・成人看護学・成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱで積み重ねた学習を振り返り、実習の目的を意識しながら臨床実習に臨んで欲しい。						
実習内容								
【実習時期】 2年次12月下旬 ～ 3年次6月 【実習期間】 3週間 【実習目標】 1 慢性疾患に罹患している対象の病態・治療心理・社会面の特徴を理解し、看護援助に活用することができる。 2 慢性疾患に罹患している対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 3 慢性疾患に罹患している対象と家族が、日常生活のなかで自己管理と適応がはかれるようにセルフケア等の看護理論を活用し、看護援助ができる。 4 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 5 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 【実習計画】 ※ 実習計画実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。 1 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で慢性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 2 臨地実習では、慢性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。								
教科書								
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		詳細は実習要項を参照						

領 域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学実習Ⅰ		担当	猪狩 綾	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法		
2 年次	後期	2 単位	90 時間	2 週間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
猪狩 綾		急性期・慢性期病棟、精神科病棟で看護実践経験あり。						
高橋さくら		急性期・慢性期病棟での老年看護実践経験あり。						
授業の概要		・老人福祉センターの制度上の意義と活動を理解し、健康維持やQOL向上のための活動に参加させていただく。 ・介護老人保健施設では入所者の方を受け持ち、生活支援を視点とした問題の抽出と残存機能を意識した日常生活援助の実践を学ぶ						
学習者への期待 (含む準備学習)		健康維持のためにがんばっている高齢者と接し、その心理や生きがい・QOLなどが考えられるようになってほしい。						
実習内容								
【実習期間】 2 年後期～3 年前期 【実習目的】 地域や施設における高齢者との関わりを通して、対象者を生活者として理解し、高齢者の持てる力に着眼した看護を実践する能力を養う。 【実習目標】 1 健康な高齢者との触れ合いを通して、暮らしや健康への思いを知り、健康維持のために老人福祉センターの果たす役割について理解できる 2 施設における各職種の役割と協働・連携の重要性、看護師の役割が理解できる 3 加齢変化や健康課題を持ちつつ生きる老年期にある対象の特徴について理解する。 4 対象の生活機能上の課題に応じた援助が実践できる。 5 自己の老年観・看護観を確認することができる。 6 看護学生として望ましい態度を身に付けることができる。 【実習計画】 ・老人福祉センターは主体事業への参加または、デイサービス、サークルなどに参加させていただき高齢者の方との関わりを通し、老年観を深める。 ・介護老人保健施設実習においては、1 名の方を受け持ち、生活者の視点で情報収集し必要な援助を考え、スタッフの援助に参加させていただく。介護保険制度の理解や多職種の連携と役割について学ぶ。								
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院						
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		詳細は実習要項を参照						

領域	専門分野Ⅱ	科目	小児看護学実習	担当	庄司 宗和 他	
開講年次・開講時期		単位数	時間数	授業形態	評価方法	
2 年次 後期 3 年次 前期		2 単位	90時間	実習	実習評価表	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験				
庄司 宗和		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有す				
中川 佑奈		臨床（小児救急を含む三次救急・集中治療室等）、看護全般にわたる経験を有す				
授業概要		保育所・病棟実習を通じて、成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する。				
学習者への期待 （含む準備学習）		大切な基礎である病態をしっかりと学び、看護援助の根拠として欲しい。 小児看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。				
実習内容						
【実習時期】 2 年次後期（2020年 1 ～ 2 月） から 3 年次前期(2020年 5 月～ 7 月)まで						
【実習期間】 2 週間						
【実習目的】 成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する能力を養う						
【実習目標】						
（保育所実習）						
1 健康な乳幼児の成長発達及び、個別性を理解できる						
2 健康な乳幼児の特徴を踏まえ、成長発達を促すための養育の実際を理解できる						
3 健康な乳幼児の保育環境について、安全と保育衛生の面から理解することができる						
4 看護者としての望ましい態度が自覚できる						
（病棟実習）						
1 健康障害を持つ小児の特性を理解し小児とその家族の抱える問題を捉えることができる						
2 健康障害を持つ小児の健康問題の解決を目指すとともに、成長発達を促せるよう小児とその家族に適切な援助を行うことができる						
3 他の職種との連携の必要性について考え、看護の役割について理解することができる						
4 健全な小児観を養うとともに、小児看護の在り方について考えることができる						
【実習計画】						
保育所実習では正常な発育の子どもと環境を観察し、養育の実際を体験する。						
実習病院では一人の子どもと家族を受け持ち、看護過程の展開を行ない必要な援助を実践する。						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学 2 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ					
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考						

領域	専門分野Ⅱ		科目	母性看護学実習		担当	宇野 由佳	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次 3年次	後期 前期	2単位	90時間	10日間	実習	実習評価表による評価		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
野辺地 郁子		周産期センター・新生児集中治療室（NICU）・婦人科病棟での実務経験有す						
授業概要		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象及びその家族への看護や母子・家族支援のための社会資源の活用の実際の場面を見学することから、看護の役割と責任を学ぶと共に対象に看護を実践する基礎能力を養う。						
学習者への期待（含む準備学習）		妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期などの対象の一般的な特徴に関する知識の整理を臨地実習の大切な準備と考えて、限られた期間の実習に体調を整えて臨んでほしい。						
実習内容								
Ⅰ 実習目的								
女性を取巻く環境の変化や妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を対象に看護を実践する能力を養う。								
Ⅱ 実習目標								
1. 妊娠期、分娩期、産褥期及び新生児期の特徴を理解し、母子及びその家族への母性看護に必要な看護技術を学ぶことができる。								
1) 妊娠期								
(1) 妊婦健診や妊婦対象の教室等を通して、妊娠の経過を学び必要な援助が理解できる。								
(2) 対象への保健指導を理解できる。								
2) 分娩期								
(1) 分娩第1期、2期、3期、4期の定義と看護援助について学び、必要な援助ができる。								
(2) 陣痛緩和の方法を学び、活用できる。								
3) 産褥期								
(1) 身体的・心理的变化及び子育て環境について理解できる。								
(2) 子宮復古・感染予防に関する指導と看護について理解できる。								
(3) 母子相互関係の確立を図るための看護について理解を深めることができる。								
(4) 父子関係の確立を図るための看護について理解できる。								
4) 新生児期								
(1) 出生直後の新生児の観察ができる。								
(2) 各種計測（バイタルサイン、頭囲、胸囲、身長、体重）が正しくできる。								
(3) 新生児の健康状態のアセスメントができる。（生理的体重減少、生理的黄疸）								
2. 母子保健に関連する法規や制度についての学びを基に、母子及び家族支援のための社会資源について理解することができる。								
3. 対象者を取巻く医療チームの構成と役割を知り、チームの一員としての看護の役割と責任を学ぶことができる。								
4. 専門職者として守るべき看護倫理について考え、行動できる。								
Ⅲ 実習計画								
1. 病院・助産院・診療所等の施設で実習を行う。								
2. グループを編成し、1実習施設に1グループを配置する。								
3. 対象1名の受け持ち又は、診察・看護援助や保健指導場面の見学を通して学ぶ。								
4. 状況に応じて実習指導者と共に援助を行い、看護の役割を学ぶ。								
Ⅳ 実習時間								
原則 8：30～17：00								

領域		統合分野		科 目	在宅看護概論		担 当	稲邊 照子・伊藤明美	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1 単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	授業態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
稲邊 照子		臨床での看護実践、准看護学院教務班長、自衛隊部隊での衛生運用幹部、病院外来棟師長、医事課長、老人保健施設での看護係長業務の経験を有す							
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有							
到達目標		・日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。 ・在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。 ・在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。 ・在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる。 ・在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。 ・現在の訪問看護制度の基本を理解できる							
授業概要		在宅看護の変遷やその社会的背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を学ぶ。在宅看護の対象者の特性と支援の在り方、ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度を学ぶ・さらに在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。							
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅看護は、家庭から地域へ広がりを加えて対象を捉えていく地域看護の主要な領域を担う。日々の生活の成り立ち、対象と家族成員の健康状態や地域社会とのつながりの中で理解することが必要となる。看護師国家試験でも重点が置かれている領域でもあり、出題数も増えてきている。自身の生活、社会情勢の変化、保健、医療、教育等の諸制度に関心を持って欲しい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	在宅看護の概念		(1)在宅看護の背景 (2)在宅看護の基盤 (3)地域療養を支える在宅看護の役割・機能				講義		
2			(1)在宅看護を展開するための基本理念 (2)在宅看護における倫理						
3	在宅療養者と家族の支援		(1)訪問看護の対象者 (2)在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件				講義		
4			(1)在宅療養の場における家族の捉え方 (2)在宅療養者の家族への看護						
5	地域包括ケアシステムにおける在宅看護		(1)地域包括ケア (2)療養の場の移行に伴う看護				講義		
6			(3)地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携						
7			(4)在宅看護におけるケースマネジメント /ケアマネジメント						
8	地域療養を支える制度		(1)社会資源の活用 (2)医療保険制度				講義		
9			(3)後期高齢者医療制度						
10			(4)介護保険制度 (5)生活保護制度						
11			(6)障害者に関連する法律						
12			(7)難病法						
13			(8)子供の在宅療養を支える制度と社会資源						
14			(9)在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源/高齢者施策						
15	まとめ		単位認定試験				試験		
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 在宅療養を支える技術							
参考文献		新体系看護全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院							
備考									

領域		統合分野		科 目	在宅看護援助論Ⅰ 在宅療養を支える技術		担 当	伊藤 明美	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2 年次	前期	1 単位	15時間	8回	講義 演習	単位認定試験			100%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有							
到達目標		・現在の訪問看護制度の基本を理解できる。 ・訪問看護における看護過程の特徴、家庭訪問および初回訪問のプロセスを理解できる。 ・在宅看護における危機管理の原則と基本を理解でき、日常生活の場で発生する可能性のある事故や問題に対する予防策を考えることができる。							
授業概要		在宅看護の対象者の特性と支援のあり方、ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度及び、看護過程の特徴を学ぶ。更に、在宅看護における安全と健康危機管理について学び、在宅における日常生活援助ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。							
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅看護は対象者と家族の意思決定を尊重して行わなければならない。又あらゆる看護領域の既習・知識技術が基本となる。関連領域の振り返りを行ったうえで、在宅で行える範囲とはの視点を持ちながら学んでほしい。							
回数	項目			授業内容				授業方法	
1	在宅療養を支える 訪問看護			(1) 訪問看護の特徴 (2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション				講義	
2				(3) 訪問看護サービスの展開				講義	
3				(4) 訪問看護の記録 (5) 家庭訪問・初回訪問				講義	
4	在宅看護における安全と 危機管理			(1) 在宅看護における危機管理 (2) 日常生活における安全管理 (3) 災害時における在療養と家族の健				講義	
5	在宅療養生活を支える 基本的な技術			(1) コミュニケーション (2) フィジカルアセスメント				講義	
6				(3) 環境整備 (4) 生活リハビリテーション (5) 感染予防				講義/DVD	
7				(6) ターミナルケア				講義/DVD	
8	まとめ			単位認定試験				試験	
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 在宅療養を支える技術							
参考文献		新体系看護全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院							
備考									

領域	統合分野		科 目	在宅看護援助論Ⅱ 療養を支える看護技術			担当	齊藤 恵理香 伊藤 明美	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	90%	レポート	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
齊藤 恵理香		臨床での内科、外科系での看護実践経験有り。保健師資格有り。							
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有							
到達目標		- 対象特性に応じたアセスメントができる。 - 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に実施できる。 - 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 - 在宅での医療的ケアにおいて、各項目についてアセスメントや援助技術の基本を理解できる。 - 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。							
授業概要		在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。また、さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実践を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実践に結び付ける。（医療的ケア中心）							
学習者への期待 （準備学習含む）		在宅で生活される方も、病院で行われている医療的な治療（処置）を継続されている方が多く、病院では看護師が行っているケアを在宅では家族が行うことになります。そのため、在宅では療養生活が継続できるかどうかの鍵は家族にあるといえます。そこで、在宅看護では療養者だけでなく、家族も生活を営んでいる生活者であるという視点を持ち学んでほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	日常生活を支える 看護技術 療養を支える看護技術 （医療）		(1)生活ケアと医療的ケア (2)生活ケアの援助技術 (3) 医療ケアの原理原則				講義		
2			(3)食生活 食のアセスメントと援助				講義		
3			(4)在宅経管栄養法（医療） (5)輸液管理				講義		
4			(6)食事の姿勢、経管栄養 演習				演習		
5			(7)呼吸 呼吸のアセスメントと援助 (8)排痰ケア（医療） (9)気管カニューレ（医療）				講義		
6			(10)在宅酸素療法（HOT） (医療)				演習/DVD		
7			(13)呼吸法、呼吸音聴診など演習				演習		
8			(14)排尿ケア排泄 排泄のアセスメントと援助 (15)排尿ケア				講義		
9			(16)膀胱留置カテーテル（医療） (17)ストーマ				講義/DVD		
10			(18)睡眠 (19)清潔と更衣 清潔のアセスメントと援助 (20)肢位の保持と移動 移動のアセスメントと援助				講義		
11			(21)排尿ケア清潔と更衣 清潔演習 肢位の保持と移動演習				演習		
12			(22)薬物療法 (医療) (23)がん外来化学療法 (24)疼痛管理				講義		
13			(25)在宅CAPD (医療) (26)インスリン自己注射管理				講義/DVD		
14			(27)褥瘡管理 (医療) (28)足病変のケア				講義		
15	まとめ		単位認定試験				試験		
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版							
参考文献		新体系看護全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院							
備考									

領域		統合分野		科 目	在宅看護援助論Ⅲ		担 当	稲邊 照子 伊藤 明美	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	70%	レポート	30%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
稲邊 照子		臨床での看護実践、准看護学院教務班長、病院外来棟師長、医事課長、老人保健施設での看護係長業務の経験を有す							
伊藤 明美		臨床での内科、外科系、訪問看護STでの訪問看護実践経験、及びケアマネジャーの経験有							
到達目標		1 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 2 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。 3 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。							
授業概要		1 さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実践に結び付けることができる。 2 さまざまな事例を通して在宅看護過程の展開について学ぶ。 3 看護過程の展開時には社会資源の活用について、多職種との連携、看護師の果たす役割について、講義、グループワークを通して学ぶ。							
学習者への期待 (準備学習含む)		1 在宅看護は、対象者と家族の尊厳ある生活を支える個別ケアである。プライバシーを守ることや、あらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断など看護師により高い資質が求められる。あらゆる看護領域の既習・知識・技術が基本となるため、振り返りを行ったうえで臨んでほしい。							
回数	項目			授業内容				授業方法	
1	在宅療法を支える災害 対策			(1) 在宅療養における災害対策 (2) 地域包括ケアシステムにおける災害対策				講義	
2				(3) 訪問看護師による災害時対応 (4) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理				講義	
3	対象に応じた在宅看護 (事例)			1. 療養の移行に伴う看護 1) 脳卒中を起こした患者の在宅療養導入の事例展開				講義/DVD	
4								事例課題学習	
5				2. 在宅での自己管理を続けている糖尿病のある独居高齢者 1) インスリン自己注射を確実かつ安全に 継続できる支援を検討				講義/事例課題学習	
6				3. 在宅療養を開始する重症心身障害児（小児） 1)在宅ける療養者とその家族の生活上の課題を検討				講義/DVD 事例課題学習	
7				4. 誤嚥性肺炎を生じた超高齢者：急性期 1) フィジカルアセスメント				講義 事例課題学習	
8	看護過程の展開			1. 在宅で療養する筋萎縮性側索硬化症患者の看護 1) 訪問看護での医療保険と介護保険の調整 2) 事例の展開 3) カンファレンス テーマ：「患者・家族が葛藤のなかで意思決定をするための 過程で看護職として援助することは何か」				講義/DVD	
9								事例課題学習	
10								グループワーク	
11	訪問看護演習			演習 テーマ：初回訪問 1) 事例 脳梗塞 左不全麻痺のアセスメント				個人ワーク	
12				演習 テーマ：初回訪問 2) ロールプレイの脚本作成、看護計画作成				グループワーク	
13				演習 テーマ：初回訪問 3) リハーサル及び演習				グループワーク	
14				演習 テーマ：初回訪問 4) 演習				発表会	
15	まとめ			単位認定試験				試験	
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版							
参考文献		新体系看護全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院							
備考									

領域	統合分野		科目	看護研究の基礎		担当	高野 岳史	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2 年次	後期	1 単位	30時間	15回	講義 演習	ケーススタディレポート		60%
						研究発表 (パワーポイント)		40%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
高野 岳史		臨床看護実践経験あり。臨床研究の学会発表、修士学位（看護学）の取得						
到達目標		1 看護研究に取り組む上での基本的な考えを理解できる。 2 看護研究の目的、種類について理解できる。 3 看護研究の過程について理解できる。 4 事例研究に関する基礎的な知識と方法について理解できる。 5 看護研究を実際に行い、研究成果を発表することができる。 6 研究成果を論文にまとめる事ができる。						
授業概要		看護研究及びケーススタディに関する一般的知識を学び、臨地実習で受け持ったケースの看護過程について振り返り、文献を活用しながら看護について考えを深めるとともに、今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		看護援助の内容を振り返り検討するという手法は、日常の看護内容を振り返り、具体的な看護の方向を見出すための必須の学習内容である。看護のプロセスの中で生じた疑問や問題を受け止め、自分の頭で考える行動が自分の看護者としての力になることを演習を通して理解してほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	看護研究の理解		看護研究の意義と必要性、倫理的配慮				講義	
2			研究方法の特徴と展開、研究プロセス				講義	
3			研究における文献検索の意義と検索方法				講義	
4	ケーススタディの理解		ケーススタディの特徴と展開				講義	
5			ケースレポートのクリティーク				講義	
6	ケーススタディの展開		ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）				演習	
7			ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）				演習	
8			ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）				演習	
9			ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）				演習	
10			ケーススタディ演習（ケースレポートの作成）				演習	
11			ケーススタディ演習 （パワーポイントの作成、発表準備）				演習	
12			ケーススタディ演習 （パワーポイントの作成、発表準備）				演習	
13			ケーススタディ発表				演習（発表）	
14			ケーススタディ発表				演習（発表）	
15			ケーススタディ発表、まとめ				演習（発表）	
教科書		坂下玲子, 他：系統看護学講座 看護研究, 医学書院, 2016						
参考文献		高橋百合子監修：看護学生のケーススタディ, メジカルフレンド社, 2011. 松本孚, 森田夏実編集：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方, 照林社, 2009.						
備 考								

領 域	専門基礎Ⅰ		科目	基礎看護学実習Ⅱ		担当	宇野 由佳
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	後期	2 単位	90時間	12日間	実習	事前学習、実習中の行動・態度、提出された記録類など実習にかかわる全てのプロセスを評価の対象とする。	
担当者名		担当講義に関する実務経験					
宇野由佳		臨床における看護実践経験有					
授業概要		学習した知識を実践の場において統合し、一人の対象との関わりを深め、看護過程を実践して看護の思考過程を学ぶ。特に対象に必要な基本的な日常生活援助方法を考え、看護師と共に指導を受けながら実践する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		良い看護を行うためには、対象をしっかりと理解することが大切です。三重の関心を持ってその人の持てる力に働きかける関わりをしましょう。分からないことは、文献で調べ、それでもわからないときは、質問していきましょう。					
実習内容							
Ⅰ 実習目的 対象に三重の関心を寄せ、対象の理解を深めながら、一連の看護過程を実践し看護の思考過程を学び看護について考える。							
Ⅱ 実習目標 1 からだ・ころ・社会関係がつながっていることを理解し、一人の生活者として全人的に対象を捉えることができる。 2 一連の看護過程を実践し、看護の思考過程を理解できる。 3 実施したことを振り返り、看護について考えることができる。 4 学生として責任のある行動をとり、主体的に学びを深める。							
Ⅲ 実習計画 1 病院施設で実習を行う。 2 グループを編成し、1 病棟 1 グループ配置する。 3 実習時間 原則 8：30 ～ 16：00 （病棟：9：00～15：00） 4 1名の学生が、対象1名を受持ち、対象に必要な看護援助を計画・実施・評価する。 5 受持ち患者への看護援助は、実習指導者または教員の助言・指導のもと実践する。 6 カンファレンスの運営は、学生主体で行い、学生同士での学びを共有する。							
＊詳細は実習要項を参照する							
教科書		『科学的看護論』及び基礎看護学領域で使用したテキスト、配付プリントを活用					
参考文献		必要に応じて提示する					
備考		基礎看護学実習Ⅰを履修していること					

第4回生 学籍番号

氏名

葵会仙台看護専門学校

(TEL 022-380-1122)